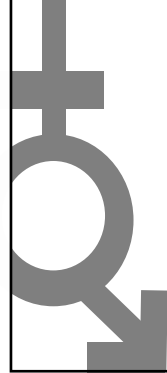


「私とジェンダー」をテーマに毎回様々な切り口でコラムを掲載しています。



私とジェンダー

～市民活動と共に人生を豊かに！～

NPO法人SEAN 事務局長・「とんがらし」代表

中村 淑子 (なかむら よしこ)

SEANと私

SEANは今年で23年目を迎えます。2018年の秋に前事務局長が退任し、とことん方式で事務局長代理となり、2020年4月事務局長を拝命。こんなはずではなかったのに、と思いつつ早くも4年目に突入しました。

事務局長となった途端にコロナ禍となり、イベント企画は軒並み中止。講師依頼や出前授業の実施も減り、平常とは異なる手探り状況のなか、できることを見つけて過ごす毎日。コロナ禍でも、出前授業や生活支援の依頼があれば感染対策をしながら対応しました。

そんななか、今までの活動が認められ、高槻市の委託事業を2021年から受託でき、SEANは潰れずに活動を続けることができました。事務局のメンバーや理事は変わりましたが、20数年変わらずにスタッフや会員でいてくださっている皆さんのお蔭と、感謝するばかりの今日この頃です。

ジェンダーとの出会い

私がジェンダーという言葉に出会ったのは何年前だったのか。いつ市民活動に関わるようになったのかを振り返っています。

1993年、栄養士の仕事をしながら、夫の妹さんに誘われるままHIV感染者に関連する勉強会を開催し支援するという市民活動団体「こころプロジェクト」に、

右も左もわからないまま参加しました。1994年「第10回エイズ国際会議(開催地横浜)」と同時に「AIDS文化フォーラムin横浜」が開催され、横浜まで行ってきました。その団体にフェミニズムの方々が多かったように気づいたのは数年後でした。その後、18年9カ月勤めていた仕事を辞めて、夫が会長をしていたPTAのお仲間の方たちが運営している「かまどねこの会(高槻市女性学級)」に出会い、翌年の春に入会。2年間ジェンダーの概念や人権・自尊感情等々いろいろと学んだ後、NPOの立ち上げに関わったのがSEANとの出会いです。

市民活動とは、フェミニズムとは、ジェンダーとは何ぞや？未だその問いに向き合っているというのが本音。そのテーマに向き合っていることこそが私の人生を豊かにしてくれているのだと最近ようやくわかりました。

私が出会った言葉

「平行線でいったらええやん」

短大を卒業し勤めて2年目の時に上司から言われた言葉。感情的な課長代理からよく叱られる(本当は怒られるが正しい)私を見て、「なんでそんなに叱られているんや？」と理由を聞いてくださった課長に私は「言われた指示通りにしていても、いつの間にか指示が変わっていて叱られます」と返事をしました。その時に課長から言われた言葉です。

「無理に交わろうと思わなくていいやないか。平行線で行ったらいやないか」となるほど思いました。今でも心に残っています。感情的に自分の意見を押し通されることに対して、できることはなにかということをおっしゃって

おられるのだと思いました。自分の意見は、誠意をもって相手に伝えることを心がけています。お互いに認め合っている場面に出くわすと嬉しくなります。

「不幸なことに、不幸なことがなかったんだ」

みうらじゅんさんの自伝的小説にあった言葉。平々凡々と生きて、生かされてきたなうと思つた時、人のしんどさに寄り添えないことを実感していた時に、この言葉に出合いました。自分のモヤモヤ感を的確に言い表して、なんだかホッとしたのでした。

「仕事の終わりは、次の人の仕事の始まり」

働いていた時に先輩から教わった考え方。自分の仕事としては終わったことでも、その終わりは、次の人の仕事の始まり。次の人がしやすいように終わっていないければならないということを教えてもらいました。常に意識はしていますが、完璧にはいきません。

「Win-Winの関係です」

活動仲間の言葉。「お互いにメリットがあるんだから、その方向